

令和8年度 柳井市立柳井西中学校 学校経営ビジョン(案)

○校訓 『自主（すすんで） 協力（たすけあって） 明朗（げんきよく）』

○学校教育目標 『自信をもって自分を語る生徒の育成』

○めざす学校像 『行きたい学校…生徒・保護者・地域住民』

『行かせたい学校…保護者・地域住民』

『充実した学校…生徒・保護者・地域住民・教職員』

○めざす教師像 『魅力あふれる教職員…「この人と関わってよかった」と思ってもらえる教職員』

『信頼される教職員…誠実さと一貫性をもって関われる教職員』

『向上心のある教職員…学び続け、よりよい教育を追究する教職員』

○令和8年度本校教育の重点

1. 表現を軸にした教育活動の推進

- 授業、行事、生徒会活動など、学校生活全体を通して、自分の考えや思いを語る場面を意図的に設定する。
- 正解を答えることを目的とするのではなく、考えを言葉にする過程や、他者の考えを受け止める姿勢を重視する。
- 教師が先回りして支えるのではなく、生徒が自ら考え、語れるよう、学習活動や指導方法を工夫する。
- 互いの語りを認め合い、安心して表現できる学級・学校風土の醸成を図る。

2. 「守・破・離」を意識した段階的な学びの推進

- 生徒一人ひとりの発達段階や実態に応じてこれらを柔軟に位置付け、無理なく次の段階へと進める。学年や教科で重点とする段階を共有し、指導の一貫性を大切にする。
【守】 学び方や表現の型、基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける段階
【破】 身に付けた力を土台に自分なりの考えや工夫を加え、学びを発展させる段階
【離】 自分の考えや価値観をもち、主体的に判断し、表現する段階

3. 学力向上に向けた基礎・基本の確実な定着

- 主体的・対話的で深い学びを追究し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 家庭学習の内容や方法を工夫し、学習習慣の定着を図る。
- タブレット端末を効果的に活用し、学びの可視化や共有を通じた授業改善を進める。
- 合唱や俳句学習など、本校の特色ある表現活動を通して、言語力・感性・協働性を育成する。
- すべての教育活動を通じて、基礎的・汎用的能力（考える力、伝える力、関わる力）の育成を図る。

4. 落ち着きのある生活と生徒指導の充実

- 発達支持的な生徒指導を基盤とし、生徒一人ひとりの成長を組織的に支える。
- 努力や頑張りが集団の中で正当に認められる雰囲気づくりを進める。
- 正しく判断し、正しく行動することが、将来の夢や生き方につながるという意識を育てる。
- 考え、議論する道徳教育・こころの教育・人権教育の充実を図る。
- 行事等における役割付与と肯定的評価を通して、自己肯定感・自己有用感を育成する。
- よく見て気付き、組織的に迅速に対応する生徒指導・教育相談体制を確立する。

5. 居心地のよい学校づくり

- いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底し、いじめのない学校づくりを進める。
- 不登校を「増やさない」ための指導・支援体制および環境整備を行う。
- 心身の発達を促す、適切で持続可能な部活動運営を工夫する。
- 特別支援教育の視点を大切にした授業・指導の充実を図る。
- 業務改善を進め、時間外在校等時間の上限（月 45 時間・年 360 時間）を意識した働き方改革を推進する。
- 多様性への配慮、実用性、経済性の観点から、制服規定の見直しを進める。